

## 令和5年度 第3回酒田市ボランティア・公益活動推進委員会 会議録

日 時 | 令和6年2月19日(月) 14:00~15:15

場 所 | 酒田市地域福祉センター

### 1 開 会

### 2 あいさつ 会長

### 3 協議事項

- (1) 令和5年度事業進捗状況について  
事務局より、資料をもとに説明。

(質問・意見等)

特になし

- (2) 公益活動支援補助制度 審査方法の変更について  
事務局より、資料をもとに説明

(質問・意見等)

委 員 | 審査会当日、推進委員10人全員が集まることができない場合について。  
欠席者は事前に配点表を提出するということか。

会 長 | そのとおり。委員全員に事前に資料を送付後、審査会前に配点表を提出していただくことになると思う。

委 員 | 資料2-3、「申請資料をもとに全体で自由に話し合う」とあるが、委員10人で話し合うには少し多いし、2つに分けるとどう集約、整理するのが難しいと思う。

事務局 | 講評について。今までは審査をして、皆さまからいただいたコメントをそのまま羅列して、審査結果とともに申請団体にお返ししていた。今回の見直しにより、その部分をどうするか。コメントを書くのに時間がかかると思うので、そこをなくしてしまい、最後に講評だけ皆で決めるということにすれば、作業の負担が少なくなるのかなと。でも、それをグループにわかれてやると、まとめる工程が必要になるのかなと。

会 長 | 私たちは2次審査会に出たことがない。これまで講評はどうしていたのか。

事務局 | これまで1団体ごとに講評はしていない。点数の結果と、1次審査、2次審査でいただいたコメントをそのまま団体にお送りしていた。

会長 | 今まで講評が必須でないのであれば、例えば、先に審査結果だけ団体に送付して、後からコメントを団体に送付するということもありということか。

事務局 | そのパターンもできるかと思っている。皆さまから審査会時の短い時間の中でコメントを書いていただくのが大変なのではないかなと思い、代わりの手段として講評というやり方もあるのかなと考えていたが、講評もなくてもいいのかなという考えも少しある。最初に委員各自で質問や意見を検討、それを申請団体に提出する。そこである程度のご意見はお伝えすることになるので、最後の講評は入れず、申請団体には点数と採択・不採択をお答えするやり方もあるのかなと考えている。

委員 | 私は何度か審査をしていただいた立場でもある。そのときにいただいたコメントは、とてもためになり励みにもなり、注意しなければならないと思うこともあり、私にとってはとても必要なものだった。講評というのは、事業を終えた後に付くべきものであり、この時点では必要ないのかなと思う。私が審査する側になり、コメントを書く時間がなさすぎて雑になってしまっているのが気になっていた。審査結果とコメントは別日の発送にし、少し落ち着いてコメントを書ければいいなと思う。

会長 | 講評を考えるのは少し難しいなと、しかも、まとめるのが難しいなと思う。コメントについて、委員と同じ考えで少しほっとした。しかも、〇〇性、〇〇性とこれまで全部の項目に全部コメントを書くのは大変だった。集計結果に直接関係ないので、1団体まとめてひとつふたつならいいかなと。その場で書けるならそれでいいし、時間を置いて書きたいなら決定後に採択・不採択に関わらず、励みになるようなコメントを発送ということもありかなと思う。

副会長 | 事前に資料が送付されるので、自分なりに仮評定をして、コメントのメモをし、審査会時に修正をするとスムーズに行く。事前に準備をせず、その場でコメントを書くのは辛い。これまであまりあらしめをするのもよくないなと思い、基本的には頑張ってもらいたいということを前提にしながら書いてきたつもり。今後は事前に各委員の質問とその回答が届くので、その回答を踏まえて感想を書く程度、あまり書くことがなくなるのではないかなと思う。回答が不十分な場合は、もちろん書くことになるが、そうではない場合、応援メッセージみたいになってしまうなと思う。

事務局 | 委員が集まる前、各自でご記入いただくときにも、これまでの配点表は採点項目ごとにコメントを書かなくてはいけないというところがあったの

で、そこは見直しをして、全体を通してのコメントというようにしたいと考えている。

副会長 | 記入欄は大きくても、事務局側がまとめやすい様式で構わないが、採点項目が多く、項目ごとの記入は辛い。書けるものはいいが、書けないものは考えるのが大変。もしかしたら、重箱の隅をつつくようなことを書いていたかもしれないという思いもある。

会 長 | 事務局で、項目ごとにコメントを書かなくてもいいようにすると考えているが、それでよろしいか。

委員一同 | 賛成。

委 員 | 団体の自主性は大切にしていかなければならないと思う。それこそ重箱の隅をつつくような書き方はもう難しいのかなと。採択・不採択が決定したときに、点数だけでなく、何かしらのコメントも一緒に送ったほうがいいと思う。申請団体は、委員から質問書・意見書を受け取り、回答書を提出した際、何か悪い回答してしまったのかなと、不安になってしまうのではないか。

委 員 | ここ3年位、補助金等の申請をしていないが、採択・不採択のコメントは他では聞いたことがない。コメントがないことに対する不満はないのではないか。

会 長 | 採択・不採択の理由ではなく、コメントは、その事業について審査員がどのように思っているのかということ。

委 員 | 採択・不採択の理由だけではなく、他ではコメント自体がない。

委 員 | 国の補助金で、ひとつ不採択になったことがあるが、1回限り、口頭で、その理由や次回申請する際の注意事項を教えてくれた。次に活かすためにしているのだと思う。

委 員 | 国はステップアップするための助言的なコメントはあるなと思う。

委 員 | 共通していることは、せっかく採択になったのだから、こういうことに気をつけてもらいたい、しっかり頑張ってもらいたい、というようなコメントを書くということ。我々もずっと委員ではなく代わる場合もあり、何を書けばいいのかわからないということにもなる。何でもいいからコメントを書いてではなく、採点項目を大枠でくくり、このような内容という程度でいいのではないかと思う。そして、採択・不採択団体へのコメントを事務局で簡単にまとめればよいと思う。

委 員 | 審査会のフリー10分間に皆の意見を拾い、そこから集約するといいと思う。

会 長 | それなら、意見交換は全体でもグループにわかれても大丈夫だと思う。

副会長 | これまで何年も審査をしてきて、おもしろい事業もあり感動しながら採点をしてきた。講演会や活動等、自分たちでやれば完結するような事業ではなく、必ず市民や子どもを含めて多くの方に来てもらうことを前提にしていると思う。その中で人の集め方についてはあまり触れていなかったように思う。資料2-2、この採点項目の中では「実現性」になるかと思うが、参加者を集める手立てを入れてもらえるとうれしい。あまり考えずに申請する団体もあると思うが、結構重要な視点だと思う。いいと思ってやったが、人が集まらなかったというのはものすごくかわいそうなこと。人集めの工夫、展望を持っていないと厳しいと思う。私はずっとどのように人を集めるのかとコメント欄に書いてきたので、加えていただけるとありがたい。それからもうひとつ。申請件数にもよると思うが、10件を想定して審査時間160分は長いと思う。事前に資料を確認しており、それなりの評価をしているので、審査時間は1団体13分ではなく、10分位でもいいのかなと。

会 長 | 時間配分は意見交換10分、採点3分を目安にしているということか。

事務局 | できるだけ1団体あたりの時間を多くとるように考えて設定したが、設定した側としても長すぎるかなと思うところもある。

副会長 | 事前に提出した質問について、こういう思いで質問をしたら、こんな答えが返ってきたが、私はこう思う、そういう共有化ができればいいのかなと。委員が気づかないことに気づく機会になればいいと思うので、そんなに長くなくていいと思う。

事務局 | 13分ではなく、10分位に設定しようと思う。

会 長 | 万が一申請数が10件を超えた場合、もっと時間がかかってしまうなど。以前は10件以上あったと思う。

副会長 | 15件前後あったと思う。いい加減に審査はできないし、くたびれてしまった。当日審査会だけで終わるのならいいが。

事務局 | 補助金の審査については、4月～5月の推進委員会の中で行うことを想定している。これまでは今年度事業の計画等を議題にあげさせていただいていた。その部分が長く、見直そうかと思っただけはいるが、来年度も補助金の審査だけではないかもしれない。

副会長 | 申請件数により、事務局で判断して構わない。審査は1団体10分でもいいし、これでは長くなるようであれば、若干減らす等。正直、2時間以上かかると大変。

会 長 | 申請件数が多いようであれば、もう少し時間を減らしていただく。

委 員 | 申請件数が少なければ、もう少しゆっくりできると思う。

事務局 | 事務局側の懸念で、申請件数ごとに1団体あたりの時間を調整するのはあ

まりよくないのかなと思っていた。ベースは8分や10分、あとは様子を見ながら調整していく。

会 長 | 申請件数が多い場合、話し合いは全体ではなくグループになると思う。委員10人というのが微妙、ひとり1分ずつ話をしたとしても10分かかる。

事務局 | グループにするとしたら3グループかなと。委員を3人位ずつにわけて、他の審査員と事務局が入る。グループごとに話をして、そのコメントを事務局が拾いきれるかなという心配が少しあるが、皆さまに確認しながら進めていければと思う。

会 長 | 全部載せる必要はなく、ポイントが伝わればいいと思う。

事務局 | とてもよかった、どんどんやってほしい、というようなコメントがあっても、全員分採点したら不採択となった場合、こういうことがあったらよかった等のコメントの配慮は必要だと思う。

事務局 | 採点結果の送付後にコメントの送付でよければ、皆さまにまず事務局案としてコメントの内容の確認をとらせていただくこともできるかなと思う。

会 長 | 先ほど、団体にはあまりタイムラグがないほうがいいという意見があったので、時間に余裕があれば、委員あてにメールや郵送等で送っていただいてもいいと思う。

事務局 | 団体に採点結果とコメントと一緒に送付ということではよろしいか。

会 長 | そのほうがいいと思う。コメントの内容の確認については、できる限り協力していきたいと思う。

### (3) 公益活動支援補助制度 人件費の対象化について

事務局より、資料をもとに説明。

(質問・意見等)

委 員 | 旅費について。講師の宿泊費、前泊や後泊も含めて、規定はどうなっているのか。例えば、旅館は食事代も入るので、素泊まり分のみ対象となるのか。

事務局 | 規定は明記していないが、市の規定と見比べながらと考えている。

委 員 | 宿泊の規定を設けるのか、素泊まりというような表記にするのか。山形県社会貢献基金は、素泊まりという条件がついているので、食事の部分は対象外。ホテルならいいが、旅館やパックになっているものは、領収書を分けてもらうのか。

委 員 | 1泊朝食付は素泊まりに入るのか。

委 員 | 朝食はだめなのではないか。

会 長 | ホテルも1泊朝食付で安くなる場合がある。

委 員 | 市の旅費規程に合わせ、上限いくらとしたほうがいいのではないか。

会 長 | そのようにしたほうがいいと思う。

委 員 | 高速代は入らないということか。

事務局 | そのとおり。市の旅費規定37円/kmの中に含まれている。

副会長 | 団体スタッフの日当は、最低賃金を基準にするのか、団体側で3割の予算の中でお支払いするのか。

事務局 | 団体の規定はいろいろあると思うが、最低限、最低賃金以上にしてもらおう。

委 員 | 例えば、時給1,000円払っているとしたら、それ以上払ってもよいということか。

事務局 | あくまでも目安。団体で1,000円お支払いしているのであれば、それでも構わないと思うが、社会通念上妥当な金額でお願いしたい。例えば、時給5,000円と言われたら、それは難しいということを伝えることはあると思う。

委 員 | 上限は設けないということか。

事務局 | 設けていない。

委 員 | いくら払ってもいいと思うが、例えば、うちは900円にする、という考え方もいいのではないか。900円が妥当かどうかは別だが。900円というのは、はっきり言って不満。なぜかという、税金を使っているということかもしれないが、何でもかんでも最低賃金。自分のところでは役所の下請けのようなことをしているが、最初はひどいな、何を考えているのだろうと思った。

会 長 | 最低賃金はこれからも上がっていくと思う。

委 員 | そう思う。賃金を抑え込もうとしているのが、役所の考え。

副会長 | ボランティアスタッフへの弁当代について。お昼前、半日で終わるときでもお弁当代は出さなくてはいけないなと思っている。この方々への交通費は出せないのか。私のところでは、公益大生が来てくれたときに「交通費・弁当代」として領収書を書いてもらっている。遠い所から来てくれるとガソリン代がかかるし、特に学生はアルバイトを休んで来てくれる場合が多い。いわゆる有償ボランティアの考え方に立てば、最低限の交通費、弁当代は渡さなければならないかなと思っている。人件費の3割の中に交通費も含まれるのかどうか。

事務局 | これまではボランティアスタッフの交通費は旅費としてお支払いをしている。人件費を追加してからは、その中に旅費は含まずに、別途の形になるのかなと考えている。

副会長 | 事務局で線引きは大変だと思うが、人件費を対象にするのは画期的、団体は非常に助かると思う。

委員 | 私はずっと言い続けてきて、ここまできたかと大変嬉しく感じている。もっと早くできれば、もっとよかったが。

委員 | これまで弁当代等、違う出し方をしていたものが、今後は旅費は旅費、人件費は人件費ときちんと線引きできるようになると思う。

会長 | まだまだ難しいところがあり、やってみないとわからないところもある。人件費について、補助金は令和7年度分からになるが、負担金は6年度中の審査からとなる。この方針でさらに検討していただきたいと思うが、よろしいか。

委員一同 | はい。

会長 | この方針で進めていただければと思う。

#### 4 その他

委員から特になし

#### 5 閉会